

監修：下妻晃二郎 編：能登 真一

臨床・研究で活用できる！ QOL 評価マニュアル

書評者：赤沢 学(明治薬科大学教授・公衆衛生・疫学)

医療者，特に薬剤師の仕事の中心がモノからヒトへ変化し，それに応じて臨床現場で行う臨床研究（介入研究）にかかわる機会が増えてきています。一方，それらの効果測定には，検査値の変化など測定可能かつ客観的指標を用いることが多く，患者中心の医療といながら，患者の視点からその効果を測定する研究は限られています。患者視点で効果を測定する代表的な指標が健康関連 QOL です。しかしながら医学・薬学教育の中で，このような QOL 評価について学ぶ機会がなく，患者の視点で効果測定を行いたくても，どうしたらよいのかわからない医療者も多いのではないかと思います。

「臨床・研究で活用できる！」と冠された本書は，医療現場で医療者が，患者が自分自身の健康状態をどのようにとらえているか，

治療によってそれがどのように変化しているかを知りたいと考えたときに役立つ情報を与えてくれます。本書は，健康関連 QOL とは何を示す指標なのかといった概念的な説明から，日本で使用可能な QOL 尺度にはどのようなものがあるかまで，わかりやすく丁寧に書かれています。特に，対象疾患を選ばずに健康全般の QOL をとらえる包括（一般）尺度として 5 種類，ある特定の疾患の QOL をとらえる疾患・病態特異的尺度として 33 種類が紹介されています。尺度の特徴，開発の経緯，質問票，結果の解釈，使用上の注意，実際に使用されている研究の紹介など，項目ごとに整理されており，臨床研究に QOL 指標を使いたいと考えたときに，どの QOL 指標が最も適しているかを比較検討できるようになっています。ま

た，自らが QOL を測定する機会がなくても，QOL を扱う臨床論文が増えてきている現状を踏まえると，本書で取り扱っている QOL 評価の特性を理解しておけば，論文に書かれている結果の解釈が容易になります。

まずは，患者中心の医療の最前線で活躍している医療者，特に患者にかかわる機会の増えてきている薬剤師で，目の前の患者が自分の健康状態をどのように感じているのか，患者視点で治療がうまくいっているのかを知りたいと考えている方には，ぜひ手に取って読んでいただきたい一冊です。

● B5・頁 352 2023 年 11 月
定価：4,950 円
（本体 4,500 円＋税 10%）
[ISBN978-4-260-05279-5]
医学書院刊